

## 役員あいさつ

## 行動すれば、必ずフォロワーが生じるという強い信念をもって

本年、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、民意主導推進室の担当副理事長をさせて頂きました。

今、大阪のまちに必要な事は、各々の役割を認識し、当事者意識を持ちながら、まちや人に積極的に関わり、良い事は更に良くなるように継続拡大し、問題となる事にはその解決に向けて「為すべきことを為す」そんな凛々しい人びとだと考えます。

大阪市や各種団体が、大阪を良くしたい、活性化させたい、という強い想いを持ちながら行っている様々な取り組み、若しくは今この時に解決しておかなければ、光輝く未来を、子や孫に残せないから是非とも解決しようとしている事を、気力・体力の充実した未来への責任世代である大阪青年会議所が先駆けて行動を起こす事は、必ずやそのフォロワーを生み出していくという強い信念のもと、1年間活動をして参りました。

人に物事を勧めるには、まず自分が率先してやる、そんな事が最初は遠巻きに見ている人びとを引き寄せ、やがてはそれをやる事が当たり前になっていく。こんな事が実現できるまでには相当な時間がかかると思います。ただ今年の活動を通じて感じた事です、誰もやらない、やりたくないと思っている事を我々が率先してやる事が必要なのだと考えます。更に、そんな人びとを沢山集めるには、難しい事では無く、普段の生活に密着した話題や情報を的確に提供する事も大事だと感じさせられました。これから大阪青年会議所は、今年行ったような事業を更に広く告知し、人びとが、自分たちのまちの事をもっと知り、もっと興味を持ち、当事者意識と愛情を持ちながら積極的に関わる様々な仕掛けを創り出すと共に、やはり行動する事を止めてはいけなさと確信致しました。

最後に、本年度お世話になりました行政、各種団体、個人の皆様方に心より感謝を申し上げますと共に、来年以降も大阪青年会議所により一層のご高記を賜ります事をお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。

副理事長  
白井 将勝  
Masakatsu Usui



## 人と人のつながりを強化するための運動を展開

本年度は、「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、協進推進室の担当副理事長をさせて頂きました。近代化の進展に伴い、地方から都市部に人口が流入し、よりよいまちを創る地域コミュニティが崩壊してきています。また、家族間においても核家族化の進展に伴い、人と人との関係が気薄になってきています。大阪JCIが展開する各分野においても根底にある大きなテーマであります。子どもたちは、一人遊びが増え、人と接することもなく、未来に夢をもてない子どもたちが増えてきています。大阪のまちに関わるすべての人びとが、互いに尊重しながら、支え合い、未来への夢を描き憧れに向かって共に進んでいこうと挑む事が必要なことであり、大人同士、子ども同士、大人と子どもの信頼関係が重要であると考えました。事業内容では、大人や子どもをターゲットとし、人間本来が持つ、手を取り合って協力し歩んでいこうとする心を抱き何事も挑戦する意欲を育み、同時に過去の先人たちの経験則を学び、夢の実現にむけ共に力を合わせ支え合う、信頼し合える関係を築きあげる、この二つの運動を展開してまいりました。

また、今年度は、財務審議会議長という役割を担い、組織の取り組む事業の費用対効果を検証させて頂きました。800余名のメンバーのかけがえのない会費を預かっている立場から、各委員会が企画している事業が委員会事業計画に沿っているかどうかを検証し、事業にかかわる費用が十分に運動を拡げる効果が見込めるかどうかといった点を中心に精査させて頂きました。改めて大阪JCIには61年間の歴史の中で莫大な有形無形の財産が蓄積されていることを感じさせられました。

本年の成果を活かし来年以降も存在感をもちながら「大阪のまち」の為に積極的に運動展開して参りたいと思いますので、引き続きのご支援ご協力賜りますように宜しくお願いします。

副理事長  
草刈 健太郎  
Kentarō Kusakari



## ダイナミックに活動するための連携役として

本年度のスローガンである「凛々しいまち大阪の実現！～為すべきことを為し、共に新たな歴史を刻もう～全ては未来のために」を掲げ、大阪のまちに私たちが掲げたスローガンの実現を目指し、理事長代行、そして補佐役として各室、各担当委員会が適切な方向性をもって事業活動が実施されているかを慎重に確認しながら最適なアドバイスを適時実施致しました。

また、2011年度は4年に一度の大型選挙であり大阪府民・大阪市民だけでなくすべての日本国民から大きな注目を集めた大阪府知事・大阪市長のダブル選挙、大阪市との協働事業である大阪城 城灯りの景（しろあかりのえ）、放置自転車問題解決のためのスマートサイクリスト事業を実施致しました。特に、城灯りの景では5万人の市民を1日で集客する大型事業である点から全員一致協力して万全の準備を整えての開催となりました。

さらに、スマートサイクリスト事業においては平松邦夫大阪市長からも今後の事業継続とまちづくりの強い意欲についての賛辞及び直接の激励を頂きました。

多くの学生・市民・団体がまちづくりに向けて協力しあって今後も事業継続を誓い合う非常に大きな成果を得ることができました。

なお、世界の恒久的平和という大きな目標を掲げ、2010年JCI世界会議大阪大会・記念事業としてダライ・ラマ法王による講演からスタートしたピースカンファレンスオブユースも2年目を迎え、世界中から来阪した学生が1週間のスケジュールで熱い議論を展開し、世界平和のための具体的アクションプラン策定を実施しました。

また、31年目を迎えるTOYP(The outstanding young person)事業も震災で開催が危ぶまれましたが滞りなく実施され、TOYPサミットという対話形式のセミナー開催により大阪市民に多くの日本復興のための具体的な行動指針や成功者の体験を直に確認する機会を創出することができました。

最後に、前述致しました多くの事業は、市民、行政、各種団体の皆様から多くのご支援・ご協力を頂きましたお陰をもちまして我がまち大阪に大きな影響を及ぼす活動を実施することができました。心より御礼申し上げます。

副理事長  
杉野 利幸  
Toshiyuki Sugino



## 「公の精神」を軸に大阪JCIをブランディング

本年度、社団法人大阪青年会議所は「凛々しいまち大阪の実現」をめざし、池田理事長のもと800余名のメンバーが一丸となり運動を展開して参りました。それぞれの委員会が為すべきことをなし、青年として柔軟な発想と行動力そしてこの大阪のまちを愛し、住み暮らし働くまちを少しでもよくしたいという郷土愛と青年会議所の一員であるという誇りを胸に抱いて明るい豊かな社会の実現のため日々活動している青年の姿は、混沌とした社会の中であっても清く頼もしいものであると思います。本年度は新たな取り組みとして、メンバー以外の方にも我々の運動を知ってもらい、広めていくためにOJCフォーラムを開催いたしました。これは法人制度改革を見据え公益社団が一般社団を選択していくことでの取り組みでもありましたが、今後を選択していく一助となる大きな成果に繋がったと思います。そして、集約事業としてOSAKAキャッスル☆ハッスル!!を「大阪城 城灯りの景」開催と共におこない2日間にわたる事業では多くの市民の皆様にお越しをいただき、大阪青年会議所の運動を助け、ブランディングの向上に繋がれたことは大きな成果であったと思います。この取り組みは私たちの大きな財産であり引き継いでいくべき活動となりました。

最後に、10月の総会において一般社団法人が公益社団法人の選択においてメンバーの総意のもと一般社団法人の選択がなされ、12年度は一般社団法人取得に向け取り組みが行われていきます。しかし、今まで61年間公のために取り組んできた青年会議所の運動の本質はなんら変わるものではなく、これからも公のために運動を展開していくことは紛れもない事実であります。先達から脈々と培われ承継されてきた歴史と伝統を受け止め運動の本質を捉えながら変えるべきところは変えていける時代を見据えこれからも社会から必要とされる組織であるために取り組んでいかれますことを期待いたします。

監事  
出口 憲作  
Kensaku Deguchi

